

表 31-b 状態像の比較 (7) コミュニケーション  
(要支援2)

	解析グループ			
	軽度認知症		非認知症	
	N	%	N	%
自分の意思を他者に伝える *				
できる	178	86.8	214	98.2
ときどき困難	27	13.2	4	1.8
他者の話を理解する *				
できる	130	63.4	206	94.5
ときどき困難	75	36.6	10	4.6
できない	0	0	1	0.5
快感情を表現する *				
非常に多い	64	31.2	95	43.6
ときどき見られる	109	53.2	93	42.7
ほとんどしない	31	15.1	28	12.8
攻撃的な感情を表現する *				
非常に多い	4	2.0	7	3.2
ときどき見られる	51	24.9	32	14.7
ほとんどしない	150	73.2	177	81.2

\*:  $p < .05$  (Fisher's Exact Test)

表 32-a 状態像の比較 (8) 表情  
(要支援 1)

	解析グループ			
	軽度認知症		非認知症	
	N	%	N	%
よくみられる表情：1 笑い				
あり	97	77.0	117	72.2
よくみられる表情：2 怒り				
あり	15	11.9	11	6.8
よくみられる表情：3 悲しみ *				
あり	24	19.0	16	9.9
よくみられる表情：4 無関心				
あり	18	14.3	14	8.6
よくみられる表情：5 落ち着き *				
あり	38	30.2	78	48.1
よくみられる表情：6 苦痛				
あり	13	10.3	8	4.9

\*:  $p < .05$  (Fisher' s Exact Test)

表 32-b 状態像の比較 (8) 表情  
(要支援2)

	解析グループ			
	軽度認知症		非認知症	
	N	%	N	%
よくみられる表情：1 笑い				
あり	150	73.2	174	79.8
よくみられる表情：2 怒り				
あり	30	14.6	24	11.0
よくみられる表情：3 悲しみ				
あり	27	13.2	27	12.4
よくみられる表情：4 無関心 *				
あり	37	18.0	15	6.9
よくみられる表情：5 落ち着き *				
あり	73	35.6	100	45.9
よくみられる表情：6 苦痛				
あり	32	15.6	27	12.4

\*:  $p < .05$  (Fisher' s Exact Test)

表 33-a 状態像の比較 (9) 適応性  
(要支援1)

	解析グループ			
	軽度認知症		非認知症	
	N	%	N	%
1日の中の気分の変動 *				
少ない	101	80.2	152	93.8
変動しやすい	22	17.5	9	5.6
変動が大きい	3	2.4	0	0
30分程度の我慢 (点滴・歯医者など)				
できる	109	86.5	150	92.6
できることがある	16	12.7	9	5.6
環境の変化への対応 *				
順応できる	67	53.2	139	85.8
少し混乱	53	42.1	16	9.9
激しく混乱	1	0.8	1	0.6

\*: p<.05 (Fisher's Exact Test)

表 33-b 状態像の比較 (9) 適応性  
(要支援2)

	解析グループ			
	軽度認知症		非認知症	
	N	%	N	%
1日の中の気分の変動				
少ない	168	82.0	188	86.2
変動しやすい	35	17.1	29	13.3
変動が大きい	2	1.0	1	0.5
30分程度の我慢 (点滴・歯医者など) *				
できる	175	85.4	201	92.2
できることがある	28	13.7	16	7.3
環境の変化への対応 *				
順応できる	124	60.5	180	82.6
少し混乱	71	34.6	31	14.2
激しく混乱	2	1.0	1	0.5

\*: p<.05 (Fisher's Exact Test)

表 34-a 状態像の比較 (9) 活動・参加  
(要支援1)

	解析グループ			
	軽度認知症		非認知症	
	N	%	N	%
自発的な活動性				
よく動く	62	49.2	95	58.6
少し動く	52	41.3	52	32.1
ほとんど動かない	8	6.3	8	4.9
全般的な意欲・活力 *				
いつも意欲がある	44	34.9	97	59.9
低いときがある	74	58.7	54	33.3
ほとんどない	3	2.4	1	0.6
集団活動への参加 *				
自発参加	50	39.7	99	61.1
促せば参加	67	53.2	54	33.3
参加しない	5	4.0	3	1.9
個人作業への参加 *				
自発参加	44	34.9	93	57.4
促せば参加	73	57.9	59	36.4
参加しない	5	4.0	3	1.9

表 34-b 状態像の比較 (9) 活動・参加  
(要支援2)

	解析グループ			
	軽度認知症		非認知症	
	N	%	N	%
自発的な活動性 *				
よく動く	75	36.6	112	51.4
少し動く	92	44.9	87	39.9
ほとんど動かない	30	14.6	12	5.5
全般的な意欲・活力 *				
いつも意欲がある	71	34.6	115	52.8
低いときがある	117	57.1	93	42.7
ほとんどない	10	4.9	2	0.9
集団活動への参加 *				
自発参加	81	39.5	134	61.5
促せば参加	112	54.6	73	33.5
参加しない	5	2.4	4	1.8
個人作業への参加 *				
自発参加	71	34.6	127	58.3
促せば参加	117	57.1	82	37.6
参加しない	10	4.9	2	0.9

\*:  $p < .05$  (Fisher's Exact Test)

表 35-a 状態像の比較 (10) 健康・栄養  
(要支援1)

	解析グループ			
	軽度認知症		非認知症	
	N	%	N	%
健康への関心 *				
高い	41	32.5	88	54.3
ふつう	66	52.4	62	38.3
少ない	11	8.7	5	3.1
わからない	4	3.2	1	0.6
低栄養状態				
現在該当	5	4.0	7	4.3
ケアにより解消	5	4.0	10	6.2
なし	111	88.1	133	82.1
食生活 (不規則、栄養の偏り)				
あり	22	17.5	25	15.4
なし	85	67.5	107	66.0

表 35-b 状態像の比較 (10) 健康・栄養  
(要支援2)

	解析グループ			
	軽度認知症		非認知症	
	N	%	N	%
健康への関心 *				
高い	66	32.2	117	53.7
ふつう	104	50.7	83	38.1
少ない	21	10.2	8	3.7
わからない	7	3.4	3	1.4
低栄養状態				
現在該当	12	5.9	7	3.2
ケアにより解消	11	5.4	14	6.4
なし	171	83.4	189	86.7
食生活 (不規則、栄養の偏り)				
あり	46	22.4	35	16.1
なし	135	65.9	149	68.3

表 36-a 状態像の比較 (11) 口腔  
(要支援1)

	解析グループ			
	軽度認知症		非認知症	
	N	%	N	%
咀嚼				
問題ない	117	92.9	145	89.5
やや困難	5	4.0	10	6.2
ケアにより解消	0	0	1	0.6
嚥下				
問題ない	115	91.3	144	88.9
やや困難	5	4.0	8	4.9
困難・問題あり	0	0	1	0.6
ケアにより解消	1	0.8	1	0.6
口腔内の清潔				
問題ない	89	70.6	131	80.9
やや困難	23	18.3	16	9.9
困難・問題あり	4	3.2	3	1.9
ケアにより解消	4	3.2	3	1.9

表 36-b 状態像の比較 (11) 口腔  
(要支援2)

	解析グループ			
	軽度認知症		非認知症	
	N	%	N	%
咀嚼				
問題ない	181	88.3	190	87.2
やや困難	18	8.8	21	9.6
嚥下				
問題ない	181	88.3	195	89.4
やや困難	18	8.8	17	7.8
ケアにより解消	0	0	1	0.5
口腔内の清潔 *				
問題ない	136	66.3	176	80.7
やや困難	51	24.9	29	13.3
困難・問題あり	7	3.4	1	0.5
ケアにより解消	4	2.0	6	2.8

\*: p<.05 (Fisher's Exact Test)



表 37-a 状態像の比較 (12) BPSD①  
(要支援1)

	解析グループ			
	軽度認知症		非認知症	
	N	%	N	%
被害妄想 *				
よくある	6	4.8	1	0.6
ときどきある	21	16.7	8	4.9
ない	95	75.4	145	89.5
暴言				
よくある	1	0.8	1	0.6
ときどきある	11	8.7	8	4.9
ない	110	87.3	145	89.5
暴力行為				
ときどきある	2	1.6	2	1.2
ない	120	95.2	152	93.8
感情不安定 *				
よくある	5	4.0	1	0.6
ときどきある	31	24.6	13	8.0
ない	86	68.3	140	86.4
大声・奇声を上げる				
ときどきある	5	4.0	4	2.5
ない	117	92.9	150	92.6

\*:  $p < .05$  (Fisher' s Exact Test)

表 37-b 状態像の比較 (12) BPSD①  
(要支援2)

	解析グループ			
	軽度認知症		非認知症	
	N	%	N	%
被害妄想 *				
よくある	3	1.5	4	1.8
ときどきある	42	20.5	14	6.4
ない	154	75.1	194	89.0
暴言 *				
よくある	1	0.5	1	0.5
ときどきある	23	11.2	9	4.1
ない	175	85.4	202	92.7
暴力行為				
ときどきある	5	2.4	2	0.9
ない	193	94.1	210	96.3
感情不安定 *				
よくある	6	2.9	5	2.3
ときどきある	56	27.3	23	10.6
ない	137	66.8	183	83.9
大声・奇声を上げる *				
ときどきある	10	4.9	3	1.4
ない	189	92.2	209	95.9

\*:  $p < .05$  (Fisher's Exact Test)

表 38-a 状態像の比較 (13) BPSD②  
(要支援1)

	解析グループ			
	軽度認知症		非認知症	
	N	%	N	%
歩き回る *				
よくある	2	1.6	0	0
ときどきある	9	7.1	1	0.6
ない	111	88.1	153	94.4
家に帰りたがる				
よくある	2	1.6	1	0.6
ときどきある	4	3.2	2	1.2
ない	116	92.1	151	93.2
同じ話を繰り返す *				
よくある	20	15.9	3	1.9
ときどきある	40	31.7	15	9.3
ない	62	49.2	136	84.0
作り話をする *				
よくある	0	0	1	0.6
ときどきある	19	15.1	1	0.6
ない	103	81.7	152	93.8

\*:  $p < .05$  (Fisher' s Exact Test)

表 38-b 状態像の比較 (13) BPSD②  
(要支援2)

	解析グループ			
	軽度認知症		非認知症	
	N	%	N	%
歩き回る *				
よくある	2	1.0	0	0
ときどきある	14	6.8	3	1.4
ない	183	89.3	209	95.9
家に帰りたがる				
よくある	1	0.5	0	0
ときどきある	9	4.4	5	2.3
ない	187	91.2	207	95.0
同じ話を繰り返す *				
よくある	17	8.3	7	3.2
ときどきある	73	35.6	21	9.6
ない	109	53.2	183	83.9
作り話をする *				
よくある	4	2.0	2	0.9
ときどきある	24	11.7	1	0.5
ない	171	83.4	209	95.9

\*:  $p < .05$  (Fisher' s Exact Test)

表 39-a 状態像の比較 (14) BPSD③  
(要支援1)

	解析グループ			
	軽度認知症		非認知症	
	N	%	N	%
異食をする				
ときどきある	0	0	1	0.6
ない	122	96.8	153	94.4
排泄物をさわる				
ない	122	96.8	154	95.1
昼夜が逆転している				
よくある	1	0.8	0	0
ときどきある	5	4.0	3	1.9
ない	116	92.1	151	93.2
他人のものを収集する				
ときどきある	2	1.6	0	0
ない	120	95.2	154	95.1
ものを壊す				
ときどきある	1	0.8	0	0
ない	121	96.0	154	95.1

表 39-b 状態像の比較 (14) BPSD③  
(要支援2)

	解析グループ			
	軽度認知症		非認知症	
	N	%	N	%
異食をする				
ない	199	97.1	212	97.2
排泄物をさわる				
ない	199	97.1	212	97.2
昼夜が逆転している *				
よくある	2	1.0	0	0
ときどきある	14	6.8	4	1.8
ない	182	88.8	207	95.0
他人のものを収集する				
ときどきある	1	0.5	0	0
ない	198	96.6	212	97.2
ものを壊す				
ときどきある	4	2.0	0	0
ない	195	95.1	212	97.2

\*:  $p < .05$  (Fisher's Exact Test)

表 40-a 状態像の比較 (15) 見当識  
(要支援 1)

	解析グループ			
	軽度認知症		非認知症	
	N	%	N	%
職員の顔と名前を忘れる *				
よくある	17	13.5	2	1.2
ときどきある	47	37.3	21	13.0
ない	58	46.0	131	80.9
家族の顔を忘れる				
よくある	1	0.8	0	0
ときどきある	2	1.6	0	0
ない	119	94.4	154	95.1
トイレなどの場所を忘れる *				
よくある	1	0.8	0	0
ときどきある	9	7.1	1	0.6
ない	112	88.9	153	94.4
見当識(時間、場所の認識) *				
理解	82	65.1	151	93.2
言えば理解	39	31.0	4	2.5
わからない	1	0.8	0	0

\*:  $p < .05$  (Fisher' s Exact Test)

表 40-b 状態像の比較 (15) 見当識  
(要支援2)

	解析グループ			
	軽度認知症		非認知症	
	N	%	N	%
職員の顔と名前を忘れる *				
よくある	12	5.9	1	0.5
ときどきある	86	42.0	22	10.1
ない	100	48.8	188	86.2
家族の顔を忘れる				
ときどきある	5	2.4	0	0
ない	191	93.2	212	97.2
トイレなどの場所を忘れる *				
ときどきある	13	6.3	0	0
ない	185	90.2	212	97.2
見当識(時間、場所の認識) *				
理解	140	68.3	208	95.4
言えば理解	54	26.3	4	1.8
わからない	2	1.0	0	0

\*:  $p < .05$  (Fisher's Exact Test)



表 41-a 状態像の比較 (16) 記憶の持続  
(要支援1)

	解析グループ			
	軽度認知症		非認知症	
	N	%	N	%
会話のなかでの話題の持続性 *				
かなり持続	71	56.3	141	87.0
少し持続	42	33.3	13	8.0
すぐに変化	9	7.1	1	0.6
出来事の記憶持続 (10分程度) *				
覚えていることが多い	86	68.3	146	90.1
覚えていることもある	30	23.8	8	4.9
すぐ忘れる	5	4.0	1	0.6
出来事の記憶持続 (2時間程度) *				
覚えていることが多い	60	47.6	140	86.4
覚えていることもある	46	36.5	13	8.0
すぐ忘れる	14	11.1	2	1.2
出来事の記憶持続 (1週間程度) *				
覚えていることが多い	33	26.2	103	63.6
覚えていることもある	51	40.5	46	28.4
すぐ忘れる	34	27.0	6	3.7
作業の模倣 (ものまね) ができる *				
まねしてできる	95	75.4	145	89.5
まねをするが困難	22	17.5	4	2.5
まねをしない	5	4.0	5	3.1

\*: p<.05 (Fisher' s Exact Test)

表 41-b 状態像の比較 (16) 記憶の持続  
(要支援2)

	解析グループ			
	軽度認知症		非認知症	
	N	%	N	%
会話のなかでの話題の持続性 *				
かなり持続	118	57.6	191	87.6
少し持続	69	33.7	18	8.3
すぐに変化	9	4.4	3	1.4
出来事の記憶持続 (10分程度) *				
覚えていることが多い	164	80.0	206	94.5
覚えていることもある	24	11.7	5	2.3
すぐ忘れる	7	3.4	0	0
出来事の記憶持続 (2時間程度) *				
覚えていることが多い	117	57.1	197	90.4
覚えていることもある	66	32.2	14	6.4
すぐ忘れる	14	6.8	0	0
出来事の記憶持続 (1週間程度) *				
覚えていることが多い	62	30.2	157	72.0
覚えていることもある	105	51.2	50	22.9
すぐ忘れる	29	14.1	4	1.8
作業の模倣 (ものまね) ができる *				
まねしてできる	151	73.7	197	90.4
まねをするが困難	33	16.1	10	4.6
まねをしない	10	4.9	5	2.3

\*: p<.05 (Fisher' s Exact Test)

厚生労働科学研究費補助金（長寿科学総合研究事業）

分担研究報告書

認知症対応型共同生活介護事業所における軽度認知症利用者の状態像に関する研究

分担研究者 檜木てる子（静岡福祉大学社会福祉学部）

研究協力者 佐々木心彩（財団法人長寿科学振興財団リサーチ・レジデント）

研究要旨

本研究では、認知症対応型共同生活介護事業所における軽度認知症の利用者の状態像を明らかにし、介護モデル作成のための基礎資料とすることを目的とし、昨年度の調査データを再分析し、さらに詳細な利用者像を明らかにすることとした。コミュニケーション能力と自発性、IADL、BPSD、記憶および見当識という4つの領域について、対応分析とクラスター分析を用いて、利用者の個人差をとらえることと、利用者の分類を試みた。軽度認知症高齢者の要介護度の重度化の防止や介護予防に対して、直接的な身体的能力の維持を目指した支援のみではなく、コミュニケーション能力や活動性といった認知機能や動機づけなどの心理的側面への支援も有効である可能性が示唆された。

A. 研究目的

本研究では、認知症対応型共同生活介護事業所における軽度認知症の利用者の状態像を明らかにし、今後の介護モデル作成のための基礎資料とすることを目的とした。

知症利用者)利用者の中からランダムに選定してもらい、ある特定の調査日における様子を中心に観察した結果を職員に記入してもらった。ただし、該当する条件の利用者が指定の人数分そろわない場合には、適宜人数を振り分けてもよいこととした(合計 10000 名分)。

B. 研究方法

調査対象者 2006年1月時点において、WAM NET に登録されている全国の通所介護事業所からランダムに2500か所を抽出し、他の調査（事業所調査、職員調査）とともに郵送で調査を依頼した。利用者調査については4部を同封し、各事業所において要支援・要介護1かつ認知症自立度ⅠまたはⅡの者を3名(軽度認知症利用者)、要介護2・3かつ認知症自立度Ⅲ以上の者を1名(中等度以上認

調査項目 ①調査対象者の基本属性(性別、年齢)、②ADLおよびIADLに関する項目、③BPSDに関する項目、④認知記憶機能に関する項目、⑤活動性に関する項目、⑥事業所での活動であった。

調査手続き 調査対象者で述べたような方法で事業所に対して郵送で調査を依頼した。記入した調査票は他の調査とともに、返信用封筒で返送してもらった。

調査期間 平成18年2月

## データ処理及び分析方法

①本研究では分析対象者として、回収票の中から軽度認知症高齢者を選択するため、要支援または要介護1に認定されており、認知症高齢者の日常生活自立度判定基準（以下、認知症自立度とする）がⅠまたはⅡの者を分析の対象とした。利用者調査全項目の中から、コミュニケーションおよび自発性に関する項目、IADLに関する項目、BPSDに関する項目、記憶および見当識に関する項目として領域別にとらえ分析に用いた。各領域の項目への回答、さらに認知症自立度（ⅠまたはⅡ）をそれぞれ1-0データとして変換し、対応分析を行った。各項目への回答はいずれも3件法（1できる、2ときどき困難、3できないなど）で回答を求めたが、当てはまる回答を1、それ以外を0として、対象者の各質問項目への回答の該当率としてとらえて分析に用いた。

②各領域別に行った対応分析の結果のサンプルプロットのスコアについて、さらにクラスター分析を行い、対象者の分類を行った。

③クラスター分析によって分類された各領域のクラスター間のクロス集計の結果から、領域間の関係を検討した。

調査データの解析にはWindows版SASシステム ver8.02を用いた。

### （倫理面への配慮）

本研究における倫理面の配慮としては、調査票は無記名であり、個人情報に特定する情報は含まれていないこと、個人情報を含む記録からの転記ではなく、調査日における観察を元にした記入であることを明記した。

## C. 結果と考察

### 1 対象者の基本属性

#### （1）分析対象者の基本属性（表1）

回収された利用者調査票は、男性 584 名、女性 2418 名、計 3002 名分であった（回収率 30.0%）。そのなかから、要支援・要介護1かつ認知症自立度ⅠまたはⅡに該当する軽度群 1269 名、要介護2以上かつ認知症自立度Ⅲ以上に該当する中等度以上群 667 名について分析を行った。

#### （2）性別

軽度群では男性 17.7%、女性 82.4%、中等度以上群では男性 22.5%、女性 77.5%であった。

#### （3）年齢

利用者の平均年齢は軽度群 82.6 歳（SD7.2）、中等度以上群 83.3 歳（SD 7.1）であった。

#### （4）障害老人自立度

障害老人自立度については、軽度群では自立 11.7%、J ランク 33.6%、A ランク 53.3%、B ランク 1.4%、C ランク 0.0%、中等度以上群では自立 4.4%、J ランク 14.7%、A ランク 62.5%、B ランク 17.0%、C ランク 1.4%であった

#### （5）認知症のタイプ

軽度群ではアルツハイマー型 33.3%、脳血管性 29.6%、その他 19.5%、不明・特定できず 17.7%であった。

中等度以上群ではアルツハイマー型 49.1%、脳血管性 28.0%、その他 14.2%、不明・特定できず 8.8%であった。

## 2 コミュニケーションおよび自発性について

調査項目の中から、コミュニケーションに関わる項目（自分の意思を他者に伝えることができるかどうか、他者の話を理解できるかどうか、感情を表現することができるかどうか